

学校評価報告書

学校名 深谷市立幡羅幼稚園

園長名 宇野 澄男 印

1 学校評価のねらい (学校・園としての受け止め)

本園の教育活動その他の園運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、園関係者保護者等から教育活動その他の園運営に対する理解と参画を得て、地域に根ざした信頼される園づくりを進める。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

(1) 全教職員から教育活動その他の園運営に対して年2回、評価を実施する。

(2) 全保護者から教育活動その他の園運営に対して年1回、評価を実施する。

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

○教職員の評価では、「心豊かでたくましい子どもの育成」が90%以上の高評価であり、研究課題への取組や日々の保育指導などの成果だと思われる。

○保護者の評価では、全18項目中全項目で90%以上の評価を得ている。特に「登園を楽しみにしている」「子の成長を実感できる」「園が子どもをよく理解している」「教育活動に満足している」の項目では、100%を達成している。

「園の教育方針や行事、活動の内容を知っている」は、昨年度の85%から95%に向上した。

「あいさつやありがとうが言える」の項目では、概ねを含めると93%の達成であるが、十分の評価が32%であり、今後更に指導の充実を図る必要がある。

(2) 園目標の具現化に向けた指標

○園教育目標の具現化に向け、本園で取り組んでいる教育活動や園運営は概ね高い評価を得られており、保育活動にも前向きに取り組み、園児も楽しい園生活を送っている。

○保護者評価で「園は生き生きと活動できる子どもの育成に努めている」の項目では、概ね100%の評価を得ている。また、「教育活動について全体的に満足している」の項目でも100%の評価を得ている。

○「基本的生活習慣が身についている」の項目では、十分満足しているの評価が、

63%であり、やや低い評価であった。

基本的な生活習慣については、園と家庭で連携した指導をしていくことが、今後の課題である。

(3) 園研究課題の具現化に向けた指標

- 新型コロナウイルス感染症予防のため、計画した研究授業は予定通りには実施できなかった。
- 研究課題「身近な自然や人とのかかわる体験を通し、思いやりの気持ちや言葉で伝え合う力の育成」は、日々の生活や園行事、保育指導を通して実践してきた。子どもたちの普段の様子を見ていると、思いやりの言葉であったり、しっかり自分の気持ちを言葉で伝える様子が見られる。着実に成果が上がっている。

4 次年度に向けての展望

※年度間の変化をみとり考察する

- 令和2年度をもって幡羅幼稚園は閉園してしまうが、新園に移行したのちも「思いやり」や「言葉で伝える」ことをしっかり取り組み、子どもたちの成長のため、継続して取り組んでいくことが大事である。
- その他、園児の生きる力の育成に向け、地域や保護者の意見を踏まえながら園評価で課題となっている事項を改善し評価を高められるよう、園運営並びに教育活動の推進を図っていく。
- 園児のあいさつでは、保護者、職員の評価が100%になるよう最重要課題として取り組んでいく必要がある。